

「学校評議員制度」について

◆学校評議員制度とは

学校法人五島育英会が、設置する初等中等教育学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）において、校長が学校の外部の方々から多様な意見を幅広く伺って、円滑な学校運営に役立てるため、平成21年度からこの制度を設けました。本校においてもその趣旨にもとづき、「開かれた学校づくり」をめざして導入いたしました。

◆2021年度の活動報告

○本校の学校評議員の皆様

- 岩波 桂三 様（成城自治会会長）
- 熊谷 勝仁 様（元公益財団法人海外子女教育財団 教育相談員）
- 栗林 大輔 様（世田谷区立明正小学校長）
- 田路 至弘 様（弁護士）
- 森上 展安 様（森上教育研究所所長）

○「学校評議員の会」開催日

第1回 2021年7月30日（金） 第2回 2022年3月下旬開催予定

○第1回の議事

本校の教育活動に関する報告（「2021年度実施計画書」に基づく）と意見交換

○第1回における主なご意見(要旨)

- ①第2期事業計画の教育目標と計画達成のための重点目標・重点課題及び2025年度達成目標について
 - ・Ⅱ類・Ⅰ類のコース制の再検討については、慎重に取り組んでもらいたい。
 - ・国際化計画は、現下の感染状況では難しい面もあるが、内容の工夫をして是非推進して欲しい。また、英語力向上と(海外)大学進学率アップを目指して更に重点的に取り組んでもらいたい。
 - ・グループ3校の交流は重要である。環境差から得るものは大きいものがある。
 - ・目標達成に向け大切な「教職員の人材育成と資質向上」に更に力を注いで欲しい。
- ②本年度の施策内容（達成目標）及び具体的な取り組み内容について
 - ・魅力ある学校づくりに部活動の充実化は欠かせないと思う。その点において外部指導員の制度の導入は大変良いことなので積極的に検討して欲しい。
 - ・様々な行事や部活動の取り組みと大学受験指導のバランスが取れている。
 - ・コロナ禍においては海外研修などの体験学習の実施には困難が伴うが、これに代わる取り組みを是非実行して欲しい。
 - ・年度末の評価の基準については一定の基準があると思うが、計画書の段階でそれがわかるようにしておいた方がよい。
- ③その他のご意見
 - ・前回よりも分かり易い計画書になっているが、更に工夫ができないか。
 - ・生徒の文化活動が活発であることは非常に大切である。積極的に取り組まれない。
 - ・ICTによる教育は必須であるが、インターネットには危険が潜んでいることやコピー&ペーストの悪用が法的・道徳的問題を引き起こすことをしっかりと教育して欲しい。
 - ・小学校でもiPadを導入し、ロイロノートを活用しているが、教員のスキルの差が大きい。校内での教員研修の充実が必要だと思う。
 - ・海外からの帰国生を積極的に入学・編入学させて欲しい。そのため編入学試験の広報活動の工夫などが必要である。

（文責：学校記録担当）

※貴重なご意見を他にも多数いただきましたが、スペースの関係で一部しか掲載できませんでした。これらのご意見を受けとめ、さらに地域に開かれた特色ある学校づくりを推進してまいります。